



# 北海道厚岸湖・厚岸湾の沿岸生態系の空間解析



仲岡 雅裕<sup>1</sup>・東条 斉興<sup>1</sup>・鎌内 宏光<sup>1</sup>・Napakwhan Whanpetch<sup>2</sup>・澁谷 辰生<sup>3</sup>・渡辺 健太郎<sup>4</sup>・山北 剛久<sup>2</sup>

<sup>1</sup>北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸実験所, <sup>2</sup>千葉大学大学院理学研究科, <sup>3</sup>厚岸町立厚岸水鳥観察館, <sup>4</sup>千葉大学大学院自然科学研究科

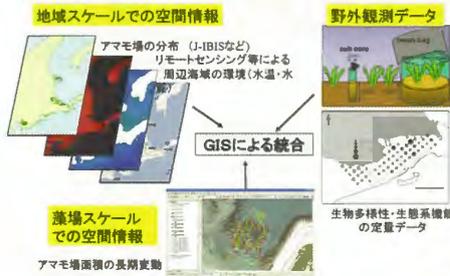
## 【概要・目的】

北海道東部に位置する厚岸湖・厚岸湾は、人為的開発の影響の少ない良好な水域が残る。ラムサール条約にも登録され、その重要性も認められているが、近年、地球温暖化と関連する生態系の変動の兆候が指摘されている。本研究では、厚岸湖・厚岸湾の水域において、主要な生態系を構成する景観要素である干潟、岩礁潮間帯、藻場を対象に、その広域分布を把握する。衛星画像データ、航空写真、小型係留気球等の複数の異なるデータを用い、得られた各データはGIS上でデータベース化され、統合解析を行うことで、主要景観要素の空間配置、連続性および動態を明らかにし、今後の地域社会の沿岸利用計画作成に向けた基礎資料を提供する。

## 【厚岸湾・厚岸湖の主要景観】



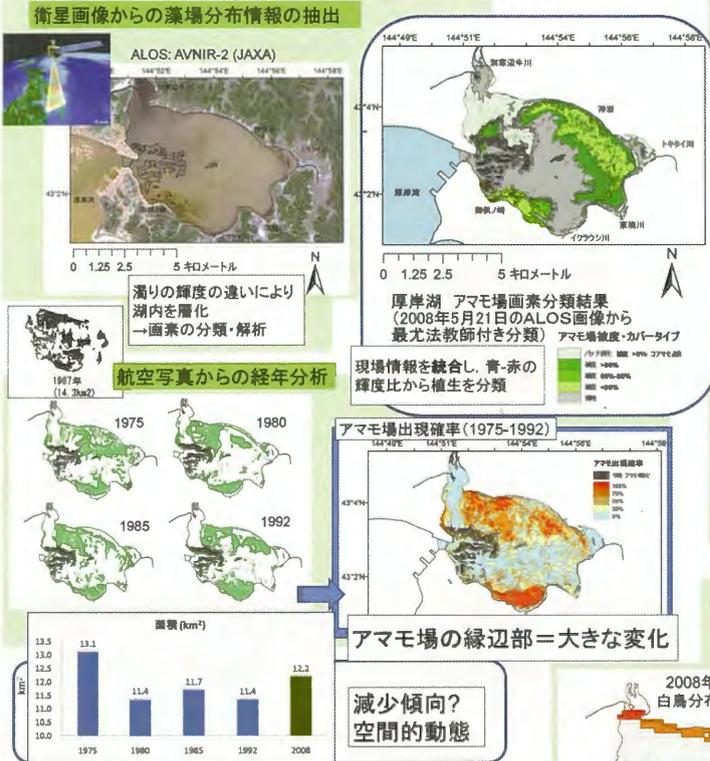
## 【広域情報データベースの基盤整備→活用】



## 【研究拠点】

- ① 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所 国内で唯一の寒流域にある臨海実験所
- ② 厚岸町水鳥観察館 ラムサール条約登録湿地である厚岸湖・別寒辺牛湿原の保全や持続的利用のための調査研究やモニタリング等を行う拠点施設

## 【広域スケールでの空間情報】

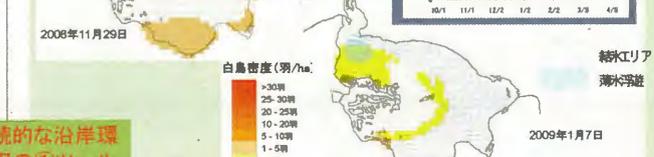


## 【藻場・局所スケールでの空間情報】



## 【展望】

沿岸域の生態系機能、生物多様性の保全・維持のための空間情報の提供  
➢ 海洋保護区、資源利用区の面積や空間配置、設置期間等に関する提言  
➢ 沿岸生態系の機能の変動を示す生物指標種の選定  
➢ データの一般公開による啓発、環境教育への利用



【謝辞】 千葉大学環境リモートセンシング研究センター 近藤昭彦教授、千葉大学大学院理学研究科 鳥居寛盛氏、京都大学フィールド科学教育センター 向井宏特任教授、横浜市立大学環境総合科学部 田中義幸特任准教授、(株)水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 堀正和研究員、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 四ツ倉典彦助教、北海道立種内水産試験場 川井唯史研究員、厚岸町環境政策課、厚岸漁業協同組合、環境省生物多様性センター、日本国際環境保全連合